

令和 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北アルプス地域における子どもの居場所づくり支援事業
事業主体 (連絡先)	北アルプス地域子ども応援プラットフォーム (090-4181-6369 代表運営委員 金枝 由香里)
事業区分	②保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	500,532 円 (うち支援金 : 400,000 円)

事業内容

- 研修会の開催
 - 子育て支援の実態調査を報告し、居場所づくりを考える研修会を開催 (7月8日)。
 - 乳幼児を持つ母親向けに、子育ての課題を乗り越えるための学習会を開催 (10月29日)。
 - 今年度の活動を振り返り、今後の居場所づくりを考える研修会を開催 (1月15日)。
- 試験的な子どもの居場所の開設
 - 夏休み宿題かたづけ隊(市立大町総合病院にて3日間)
 - おやつ付き放課後自習室(市立大町総合病院にて2回)
 - 新春大人も子どももみんなで書初め(池田町実家の茶の間、大町市常盤公民館で各1回)



【冬休みの子どもの居場所づくり】

【目標・ねらい】

- ①子どものための支援ネットワークを広げ、貧困の連鎖を断ち切るための研修会を開催する。
- ②子ども達の生の声を集め、居場所の担い手・支援者を掘り起こすための試験的な子どもの居場所を開設する。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1. 研修会の開催3回

参加人数延べ 66 人。居場所を作りたい人、子どもの力になりたい人に加え、行政の関係諸機関からの参加があり、情報交換の場にもなった。毎回グループワークを入れることで、研修を深めることもできた。
2. 試験的な子どもの居場所の開設7回

参加者延べ 59 人、関わるスタッフ・協力者延べ 61 人。3種類の居場所を試すことで、小学生から高校生までの様々なニーズを知ることができた。学習支援から食育、見守り、食材提供等、様々な協力が得られた。

※自己評価【A】

【理由】
活動を展開する中で、様々な場面で当初見込み人数を大きく上回る方に協力いただいた。また居場所の試験的開設を通じて、子どもや親の生の声を多く集めることができ、予定以上の成果が得られた。

今後の取り組み

- ※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。
- ※アンケート調査等では、長期休みや電車待ちに学習支援をする子どもの居場所が多く求められている。来年度はこのニーズに応える取り組みを継続したい。
- ※居場所づくりは手間はかかるが、各方面からの協力が得やすいこともわかった。子育て中の母親や高校生等、居場所を求める当事者が声を上げ、協力者が集うのが望ましい。来年度はこの前例を作りたい。
- ※本当に居場所を必要とする層に利用してもらうためには、継続が必要である。担い手育成と共に継続の仕組みづくりに力を入れたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある